

高齢者向け家事援助ボランティアに対する意識と潜在供給力

オクダ マサキ ホシノ ユウヤ イチダ ユキノブ
奥田 将己*1 星野 悠哉*3 市田 行信*2

目的 インフォーマルサービス提供においてNPO法人が抱える主な課題として、財政上の問題（活動資金の工面が困難なこと）や、従事者（ボランティア）が確保できていないことがあげられる。本研究ではその課題を受け、従事に必要な経験と時間を持っている可能性が高い者の抱えている、家事援助を中心とする高齢者支援のボランティア活動へのイメージや参加意向についての調査を行った。

方法 家事援助に従事可能な経験と時間を持っている可能性が高い、配偶者等の扶養に入っている全国の40歳代から60歳代の女性に対してインターネットアンケートを行った。その結果のうち、年齢、労働日数、世帯所得、同居家族、高齢者向けボランティア（主に家事援助）への興味・イメージ・参加意向についての回答を利用して、各作業内容ごとに参加意向を持つ者の特徴を分析するためのロジスティック回帰を行った。

結果 ボランティア参加意向を持つ者の属性においては、無償であることが前提の場合「60歳代」の参加意向が強い一方で、有償になることでは「60歳代」の参加意向は高まらない傾向もみられた。有償であることで参加意向の高まる傾向は、作業内容では「清掃・洗濯」、属性では「等価所得200万円より多く300万円以下」の層に顕著であった。また、仕事を持つ者に参加意向の強さがみられる部分があり、特に「移送・送迎」で「労働日数週4日以上」の者が興味を示している傾向にあった。

結論 作業内容によっては半数以上が参加意向を示しているものもある一方で、現状のボランティア参加割合が低いこと踏まえると、かなりの数の潜在的な従事者が活用できていない可能性が示唆された。また先行研究の特徴と合わせても、60歳代の無償ボランティアにおいての参加意向は注目に値するものと考えられる。

キーワード インフォーマルサービス、家事援助、ボランティア、高齢者支援

I 緒 言

インフォーマルサービス（介護保険によらず行われるボランティア等のサービス）は、介護系（福祉系）NPOが積極的に取り組んでおり、地域のニーズに応えるための先駆的役割を担っているものもある¹⁾。しかし、介護系NPOにお

ける先行研究²⁾にて介護保険の制度外サービス提供において法人が抱えている主な課題として、財政上の問題（活動資金の工面が困難なこと）や、従事者が確保できていないことがあげられている。

そこで、家事援助を中心とする高齢者支援のボランティア活動において、潜在的な従事者が

*1 株式会社EBP政策基礎研究所パートナー兼主任研究員 *2 同代表取締役

*3 独立行政法人科学技術振興機構研究開発戦略センターフェロー

活動に対して持っているイメージや、各作業内容における参加意向（無償・有償）に関して、家事援助に従事可能な経験と時間を持っている可能性が高い40～60歳代の女性に対してアンケートを行った。またアンケートの結果を元に、全体的な傾向や回答者の属性による傾向の違いなどを探索的に分析し、それらの課題に向けて取るべき対策を考察した。

Ⅱ 方 法

(1) 対象

現状、保険外の家事援助（自立支援）などの高齢者支援サービスに参加しているボランティアは、ほとんどが子育ての一段落した世代の女性である、と考えられる。課題である従事者不足を解決するためには、潜在的な従事者である人々の意識を把握し対策を打つことが重要となる。本調査では、該当する人々のボランティアに対する意識、ボランティアの各作業内容に対する参加意向などを、ネットアンケートを通じて把握することを目的とする。

調査は、予算上の理由と、現状で家事援助を

行っている人がその群に多いことから、40～60代の女性を対象にした。また、フルタイムで働いている女性は、継続的に家事援助のボランティアに参加することは厳しいため、配偶者等の扶養家族である群に限っている。これらの調査対象の人々の、ボランティア活動や高齢者支援についての意識を知ることが、従事者の確保に資することが期待される。

アンケートは、平成24年12月にクロス・マーケティング社のモニターを対象として実施した。調査対象としたのは、配偶者等の扶養となっている40歳代から60歳代までの女性1,000名（うち89名が家事援助に限らず何らかのボランティア活動に従事）である。それぞれの年齢層の人数は、人口の年齢層別の比率（総務省統計局統計調査部国勢統計課「国勢調査」の年齢各歳別人口のデータ（平成22年10月1日現在）に基づく）に応じて割り振った（40歳代：322名、50歳代：316名、60歳代：362名）。回答したモニターの居住地（都道府県）は日本全国各地に分散していたため、日本全体を母集団として、ある程度みなすことが可能である。また、訪問介護員である女性には訪問介護員向けのアンケートへ誘導しているため、本稿で扱うアンケートの回答者は、訪問介護員以外の職業に就いている者や専業主婦などが対象となっている。

表1 分析に用いた調査票上の質問の詳細

質問	回答の選択肢等
あなたは、家事援助サービスのボランティア（有償・無償問わず）の活動に対して、どのようなイメージをお持ちですか。以下の中から当てはまるものを全てお選び下さい。（複数回答／13、14は単一回答）	1. 地域社会のためにする活動 2. 使命感を伴うやりがいのある活動 3. 世の中や人のためにする活動 4. 自分の経験や知識・技能を活かすことができる活動 5. 自分の充実感、満足感を得ることのできる活動 6. 人間性を豊かにすることができる活動 7. 多くの人との交流を深めることができる活動 8. 気軽にできる活動 9. 経験や知識・技能がないとできない活動 10. 無償で行う奉仕活動 11. 自己犠牲による奉仕活動 12. 苦労や危険を伴う活動 13. この中にはない 14. わからない
以下の内容のうち、やっても良いと思うものをお答えください。有償の場合は、望ましい時給を選択してください。..... 食事作り..... 清掃・洗濯..... 買い物・用足し..... 車での移送・送迎..... 外出時の介助..... 食事の宅配..... 子どもの身辺の世話..... 独居高齢者の安否確認..... 高齢者の話し相手..... その他の内容.....	無償、1～199円、200～399円、400～599円、600～799円、800～999円、1,000～1,199円、1,200～1,399円、1,400～1,599円、1,600～1,799円、1,800円以上、やりたくない ※左記の全ての項目に対して、上述の選択肢を1つ回答する方式

(2) 分析方法

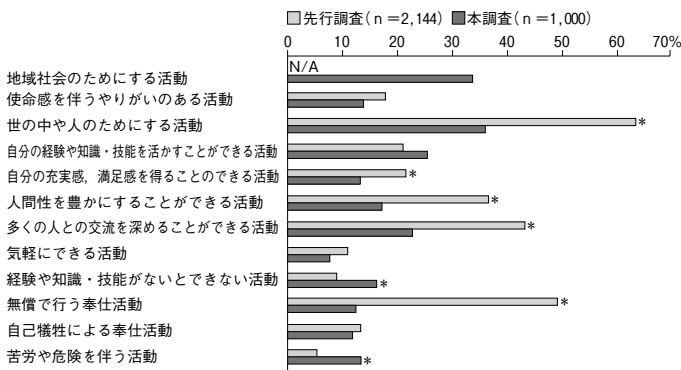
本研究ではその際の調査結果の中から、本人の年齢、本人の労働日数、世帯所得（不労所得はアンケート回答者が把握していないことが多かったのと、同居家族の就労状態からの解釈を行いたいため、ここでは勤労による世帯所得に回答のあった情報を利用）、同居家族の人数を確認するための質問（中卒後64歳までが

該当する生産年齢と、それ以外が該当する非生産年齢の人数が区別できる形)、高齢者向けボランティアへの興味に関する質問、表1に示す家事援助サービスのボランティアに対するイメージに関する質問と、作業内容別のボランティアへの参加意向に関する質問の回答を分析に利用した。またイメージについての質問の比較対象として、1993年に内閣府が行っているボランティア活動に関する世論調査の結果³⁾

(2002年にインターネット上で公開)を用い、対象の性別やボランティアの内容に特に制約を付けていない場合のイメージとの比較を行った。

また、それぞれのボランティア内容への無償・有償それぞれでの参加意向を持つ者の特徴を探るため、年齢層(グループ)、同居パターン、等価所得(世帯収入を同居人数の平方根で除したものを利用)を説明変数としたロジスティック回帰を行った。ロジスティック回帰を用いた分析はSPSS Statistics 19によって行った。

図1 先行研究の一般のボランティアに関するイメージと、本研究の家事援助ボランティアに関するイメージの比較



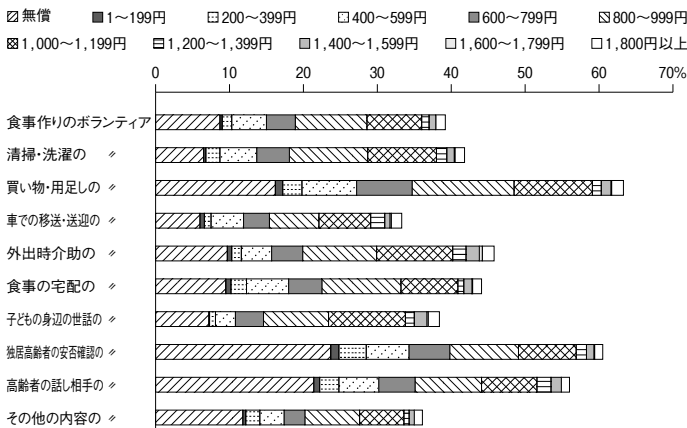
注 1) *: 比率の検定において両側5%で有意

2) N/A: データなし

出典 (株)EBP政策基礎研究所

「専門職以外の者にも提供可能なサービスの民営化に向けた利用者の支払意思額の推定及び事業性分析に関する調査事業-多様なサービス提供主体としてのNPO等の自主的活動の支援のために-(厚生労働省平成24年度老人保健事業推進費等補助金(老人保健健康増進等事業分))」

図2 家事援助等高齢者向けボランティアの参加意向と、その際に求める報酬額 (n=1,000)



出典 (株)EBP政策基礎研究所

「専門職以外の者にも提供可能なサービスの民営化に向けた利用者の支払意思額の推定及び事業性分析に関する調査事業-多様なサービス提供主体としてのNPO等の自主的活動の支援のために-(厚生労働省平成24年度老人保健事業推進費等補助金(老人保健健康増進等事業分))」

(3) 倫理的配慮

本調査で利用したクロス・マーケティング社は(一財)日本情報経済社会推進協会による「プライバシーマーク」を取得しており、モニターの個人情報保護を十分に配慮している組織である。また、著者がその組織より受け取ったデータは匿名化がされた後のものとなっており、データ分析結果も個票内の対応関係は判別できない形のもを本研究内では提示している。

Ⅲ 結 果

ボランティアに対するイメージで先行調査と今回の調査の結果を比較したものを図1に示す。家事援助ボランティアに対して40~60歳代の女性が持っているイメージは、一般のボランティアに対して15歳以上の全年齢層の人が持っているイメージと比べて、「経験や知識・技能がないとできない活動」「苦労や危険を伴う活動」とのイメージがより強く持たれており、「世の中や人のためにする活動」「自分の充実感、満足感を得ること

のできる活動」「人間性を豊かにすることができる活動」「多くの人との交流を深めることができる活動」とのイメージの持たれ方は弱かつ

た。

作業内容ごとのボランティアへの参加意向と最低限必要と考える報酬についての考えを図2に示す。無償・有償を合わせた家事援助等高齢者向けボランティアの参加意向については、「買い物・用足しのボランティア」への参加の意向を持つ者が63.3%で最も多く、続いて「独居高齢者の安否確認のボランティア」「高齢者の話し相手のボランティア」がそれぞれ参加の意向を持つ者が60.5%、56.0%となっていた。

高齢者向けボランティアに興味を持つ者（当該設問上で「現在していないし興味もない」以外の回答を行った者；全体の45.6%）の属性を分析した結果について表2に示す。興味を有意に押し上げる影響のあった属性は、

表2 高齢者向けボランティアへの活動興味に関するロジスティック回帰分析の結果

応答変数：高齢者向けボランティアへの活動興味あり(あり=1, なし=0)

説明変数(二値)	β	標準誤差	p値	オッズ比
グループ_50歳代	0.182	0.170	0.285	1.200
グループ_60歳代	0.510	0.171	0.003	1.664
生産年齢・非生産年齢とも同居有	0.363	0.147	0.013	1.438
非生産年齢のみ同居有	0.114	0.207	0.582	1.121
等価所得100万円より多く200万円以下	-0.186	0.284	0.511	0.830
等価所得200万円より多く300万円以下	0.026	0.259	0.920	1.026
等価所得300万円より多く400万円以下	-0.335	0.306	0.273	0.716
等価所得400万円より多い	0.071	0.266	0.789	1.074
等価所得分からない	-0.052	0.273	0.848	0.949
本人の労働日数週1から3日	0.469	0.222	0.035	1.598
本人の労働日数週4日以上	0.299	0.158	0.059	1.348
定数	-0.657	0.282	0.020	0.518

- 注 1) 高齢者向けのボランティアへの活動興味については、当該設問の選択肢上で「現在すでにボランティアで高齢者向けボランティアをしている」「現在していないが、興味はある」「興味はないわけではないが、きっかけがない、もしくはどのような活動・団体があるのかわからないためやっていない」を選んだ者を興味ありと判断している
- 2) リファレンス(基準)は「グループ_40歳代」「生産年齢のみ同居あり」「等価所得100万円以下」「本人の労働日数週0日」
- 3) オッズ比が $p < 0.05$ となった変数の行の内容を下線で示す

表3 無償である場合の各種ボランティアへの参加意向に関する回帰分析結果の概要

ボランティアが無償であることが前提の場合

説明変数/応答変数	食事作り	清掃・洗濯	買物・用足し	移送・送迎	外出時介助	食事の宅配	子どもの世話	独居高齢者の安否確認	高齢者の話し相手
グループ_50歳代									
グループ_60歳代	+	+	+		+		+	+	+
生産年齢・非生産年齢とも同居有									
非生産年齢のみ同居有									
等価所得100万円より多く200万円以下									
等価所得200万円より多く300万円以下									
等価所得300万円より多く400万円以下									
等価所得400万円より多い	+				+		+		
等価所得分からない									
本人の労働日数週1から3日									
本人の労働日数週4日以上					+				

- 注 1) +…説明変数の係数が正の値(オッズ比が1を超える)かつ $p < 0.05$ で有意
- 2) リファレンス(基準)は「グループ_40歳代」「生産年齢のみ同居あり」「等価所得100万円以下」「本人の労働日数週0日」

表4 有償である場合の各種ボランティアへの参加意向に関する回帰分析結果の概要

ボランティアが有償であることが前提の場合

説明変数/応答変数	食事作り	清掃・洗濯	買物・用足し	移送・送迎	外出時介助	食事の宅配	子どもの世話	独居高齢者の安否確認	高齢者の話し相手
グループ_50歳代									
グループ_60歳代	-	-	-	-	-	-	-		
生産年齢・非生産年齢とも同居有		+			+		+		
非生産年齢のみ同居有									
等価所得100万円より多く200万円以下		+					+		
等価所得200万円より多く300万円以下	+	+			+		+		+
等価所得300万円より多く400万円以下		+					+		+
等価所得400万円より多い	+	+					+		+
等価所得分からない									
本人の労働日数週1から3日					+			+	+
本人の労働日数週4日以上						+			

- 注 1) +…説明変数の係数が正の値(オッズ比が1を超える)かつ $p < 0.05$ で有意
- 2) -…説明変数の係数が負の値(オッズ比が1未満)かつ $p < 0.05$ で有意
- 3) リファレンス(基準)は「グループ_40歳代」「生産年齢のみ同居あり」「等価所得100万円以下」「本人の労働日数週0日」

「60歳代」「生産年齢・非生産年齢とも同居有」「本人の労働日数1から3日」であった。

表3, 表4に示すボランティア参加意向を持つ者の属性においては, 無償であることが前提の場合「60歳代」の参加意向が強い一方で, 有償になることでは「60歳代」の参加意向は高まらない傾向もみられた。有償であることで参加意向の高まる傾向は, 作業内容では「清掃・洗濯」, 属性では「等価所得200万円より多く300万円以下」の層に顕著であった。また, 仕事を持つ者に参加意向の強さがみられる部分があり, 特に「移送・送迎」で「労働日数週4日以上」の者が興味を示している傾向にあった。

Ⅳ 考 察

家事援助のボランティアに対しては, 回答対象者を絞っているが故の特徴も出ていと考えられるが, 専門職に対して持たれるようなイメージ(経験や知識・技能がないとできない活動であると思われるなど)に回答されている傾向が, ボランティア全般に比べて強くなっていた。一方で, ボランティア全般に持たれることの多いイメージ(世の中や人のためにする活動であると思われるなど)に回答されている傾向は弱くなっていた。

今回のアンケートでは, 対象のボランティアの作業内容を仕事として行うこともある訪問介護員を除いて回答を得ている。そのため, 一般の女性が家事援助に従事することに, ハードルの高さを感じていることがうかがえる。

一方で, 作業内容(例えば買い物・用足しや独居高齢者の安否確認)によっては半数以上が参加意向を示しているものもあり, 現状のボランティア参加割合を踏まえると, かなりの数の潜在的な従事者を活用できていない可能性が示唆された。首都圏30km圏内と長野県, 大分県で一般のボランティアの参加率そのものについて論じている先行研究⁴⁾においても, 他の年齢層と比べて60歳代の参加率の高さが示されていることから, 60歳代の無償ボランティアにおいて

の参加意向は注目に値するものと考えられる。また, 子どもや高齢者(介護者)の同居により問題意識の芽生えている傾向も似ているが, 本研究の場合は本人が十分な収入を得ていない者が調査対象になっているので, ボランティアの参加にあたっては, 同居する他の働き手の金銭面でのフォローが必要になる場合もあることが示唆されている。さらに, 60歳代以外で等価所得中間層の者においては, ボランティアで得られる金銭的報酬が参加を後押しする要因になることも考えられる。

また高齢者の地域社会での人的関わりと主観的健康感に関する先行研究⁵⁾において, 女性については地域の会合への参加頻度ではなく頼まれごとの頻度の大きさが主観的健康感を高めているとの分析結果が出ている。本調査と回答者の年齢層が共通しているのは60歳代のみであるが, 仕事ほどではない「ちょっとした近隣互助」が行う側にもメリットをもたらす可能性が高いことが示されているといえる。

謝 辞

本研究は, 厚生労働省平成24年度老人保健健康増進等事業(老人保健事業推進費等補助金, H24-老健-第2-1)の助成を受けたものです。

また, 本研究の調査票設計にあたりご助言を頂きました, 岡山大学岸田研作准教授に厚く御礼申し上げます。

文 献

- 1) 本郷秀和. 福祉NPOが主体となって地域の福祉に取り組む. 妻鹿ふみ子編著. 地域福祉の今を学ぶ, 2010: 126-39.
- 2) 本郷秀和, 荒本剛, 松岡佐智, 他. 介護系NPOの現状とサービス展開に向けた課題. 福岡県立大学人間社会学部紀要 2011: 19(2): 1-18.
- 3) 内閣府広報室. 「生涯学習とボランティア活動に関する世論調査」. (<http://www8.cao.go.jp/survey/h05/H05-11-05-10.html>) 2002.6.26.
- 4) 跡田直澄, 福重元嗣. 中高年ボランティア活動への参加行動-アンケート調査個票に基づく要因分析. 季刊社会保障研究 2000: 36(2): 246-55.
- 5) 立福家徳. 地域社会での人的関わりと高齢者の主観的健康との関連. 厚生」の指標 2013: 66(7): 8-13.